

異文化理解－ヨーロッパ編

科目責任者 小川和彦
学年・学期 1学年・3学期

I. 前文

本科目ではヨーロッパを理解する事を主眼とします。近年のグローバル化は著しい。しかし、日本と外国に関して異文化理解はまだ進んでいない。日本人が日本の学校で外国語を学んでもいざ外国人と話すとき意思疎通が不可能となることがある。つまり相互の異文化理解が十分でないからだ。この点を補うため私が海外で経験した事を直接伝えたい。ヨーロッパの歴史、文化を学ぶ事で異文化を知るきっかけを持つことになる。その知識は海外で学ぶ時、仕事をする時、あるいは国内で外国人を話すときに役立てることができるであろう。

なお、履修者は5人までとします。

II. 担当教員

非常勤講師 小川和彦

III. 一般学習目標

・グローバル化した現代日本とEUの異文化理解を探る。

IV. 学修の到達目標

- 1) 異文化としてのヨーロッパ文化を理解し、相互理解の可能性を探る。
- 2) 将来の海外研修を想定し、異文化との共存について考える。
- 3) インターネットを使用し、地図の判読、異文化関係資料の使い方を学ぶ。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブラーニング
1	10	7	水	4	異文化が交わる場所	小川和彦	1, 2, 5
2		14	水	4	スイス。歴史と現状	小川和彦	1
3		21	水	4	ベルギー。公用語が3つ	小川和彦	1
4		28	水	4	オランダ。歴史と生活	小川和彦	1
5	11	4	水	4	長崎。日本とオランダの関係	小川和彦	1
6		11	水	4	デュッセルドルフ。ドイツの日本人町	小川和彦	5
7		18	水	4	まとめ。自分にとって異文化とは？	小川和彦	2

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

以下のとおり成績評価する。() 内は評価の割合。

最終レポート (65%), 事前課題100字まとめ (28%), 授業始まりの小テスト (7%)

